

(様式第1号)

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成30年度)

施設の名称	宮城県障害者総合体育センター
指定管理者の名称	社会福祉法人 宮城県障がい者福祉協会
施設所管部課(室)	宮城県保健福祉部障害福祉課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘要
平成21年4月 ~ 平成26年3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県身体障害者福祉協会	
平成26年4月 ~ 平成31年3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県身体障害者福祉協会	
平成31年4月 ~ 令和6年3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県障がい者福祉協会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指定管理者の名称	名称	社会福祉法人宮城県障がい者福祉協会
	所在地	宮城県仙台市宮城野区幸町4丁目6-1
指定期間	平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日(5か年)	
募集方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施設の名称	宮城県障害者総合体育センター	
所在地	宮城県仙台市宮城野区幸町4丁目6-1	
設置年月	昭和50年1月	
根拠条例等	障害者体育施設条例	
設置目的	当施設は、障がい者のスポーツの振興及び普及を図り、もって障がい者の心身の健全な発達並びに自立及び社会参加の促進に資するため設置したものである。	
施設の内容	敷地面積	16,095.37㎡
	構造	鉄骨一部鉄筋コンクリート造
内容	体育館:体育室, トレーニング室, 事務室, 更衣室, トイレ, 機械室, グラウンド:器具室, 更衣室, トイレ	
開館(所)日	火曜日, 12月29日から翌年1月3日までを除いた日	
開館(所)時間	午前 9時00分 ~ 午後 8時00分(グラウンドは午後5時まで)	
指定管理者が行う業務の範囲	・体育センターの設置目的に即した業務(施設の提供, 指導及び普及など) ・施設全体の管理運営業務(経営マネジメント, 経理及び各種報告書の作成) ・施設の利用促進等に関する業務(運営協議会, 利用調整会議の開催) ・施設の使用許可申請の受付及び許可業務 ・機械設備の操作 ・日常点検業務・施設全体の維持管理業務(清掃及び保守点検等) ・施設の亡失等の届け出受理及び報告業務	
利用料金制	採用の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利用料金の名称	体育館, グラウンド

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
開館(所)日数	308 日	308 日	308 日	100.0%	100.0%
延べ利用者数	30,000 人	28,691 人	29,149 人	97.2%	101.6%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
障害者	12,000 人	9,878 人	10,592 人	88.3%	107.2%
その他	18,000 人	18,813 人	18,557 人	103.1%	98.6%
合 計	30,000 人	28,691 人	29,149 人	97.2%	101.6%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入 (単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
県指定管理料	28,927	28,927	28,927	100.0%	100.0%
利用料金収入	915	931	931	101.7%	100.0%
その他	32	229	24	75.0%	10.5%
収入計 (a)	29,874	30,087	29,882	100.0%	99.3%

(2) 支出

人件費	15,725	16,878	15,803	100.5%	93.6%
施設管理費	9,326	7,710	9,250	99.2%	120.0%
事業運営費	4,660	4,421	4,565	98.0%	103.3%
その他	163	429	56	34.4%	13.1%
支出計 (b)	29,874	29,438	29,674	99.3%	100.8%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	649	208		32.0%
前期繰越収支差額	0	0	0		
次期繰越収支差額	0	0	0		

自主事業

(1) 収入 (単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成 年度) (A)	前 年 度 (平成 年度) (B)	評価対象年度 (平成 年度) (C)		
自主財源	51	52	51	100.0%	98.1%
収入計 (a)	51	52	51	100.0%	98.1%

(2) 支出

事業費	51	52	51	100.0%	98.1%
支出計 (b)	51	52	51	100.0%	98.1%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	0	0		
前期繰越収支差額	0	0	0		
次期繰越収支差額	0	0	0		

6. 評価対象年度(平成30年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	評価	県の評価 【施設所管課記入】		評価
	正規	非正規					
①管理運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 職員は正規4名・契約職員2名の合計6名の配置(そのうち2名が福祉センター勤務を兼ねる) 職員の研修については新任職員研修, 外部団体開催の福祉研修, 障がい者スポーツ研修等に派遣いたしました。 		<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者に各種スポーツの情報を提供し, 各事業でのスポーツプログラムのサービス提供を積極的におこないました。 緊急時の対応・対処を学ぶため, 救命救急講習会(心肺蘇生法・応急処置)を開催し, 利用団体・近隣施設にも参加を呼びかけ多くの参加者とともに救命救急の確認ができました。 	A	必要最低限の職員配置で, 事業を効率的かつ適切に実施している。また, 職員は緊急時の対応等, 研修を受講し, 利用者が施設を安全に安心して利用できるように努めている。		A
人員体制	正規	4人	非正規	2人			
②施設・設備の維持管理業務の実施	<ul style="list-style-type: none"> 各設備保守委託業者と連絡を取りながら, 定期的な保守点検と施設・設備の修繕をおこないました。 各施設・設備保守点検 消防設備工事(消火器の交換) 館内照明LED取付工事 玄関・トイレ自動ドアセンサー交換 駐車場ライン引き 		<ul style="list-style-type: none"> 日常の設備点検を怠らず, 職員もできる範囲で, 自らの修理, 点検, 整備を積極的におこないました。 職員によるグラウンドの転圧や季節に合わせて芝生整備(草刈り)を重点的におこない整備に努めました。・危険視されていた「薄くなっていた駐車場の白線」の引き直しを実施し, 駐車場の危険箇所の改善に努めました。 	A	施設の保守業者による定期点検を確実に実施しているほか, 老朽化が懸念されるため, 職員一人一人が常日頃から意識的に点検を実施することで, 安全確認とともに, 適切な維持管理に努めている。		A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	<ul style="list-style-type: none"> 事業仕様書により実施した各事業 障害者スポーツ活動普及促進事業 (1)スポーツ教室・研修 (2)地域巡回指導 (3)健康教室 (4)啓発・情報の提供 (5)障害者スポーツ普及事業への協力 (6)施設の貸館業務(7)施設的环境整備 		<ul style="list-style-type: none"> 競技スポーツ, レクリエーション, 健康の維持等の多様なニーズに応えられるように, 様々な障がい, 運動強度に合わせたニュースポーツを中心に障がい者スポーツ事業を提供いたしました。 ・昨年よりも実施回数・参加者も増え様々な障がい者の方々に参加していただきました。 	S	来年度に東京2020パラリンピックを控えて, 県民の障害者スポーツへの関心が高まるなか, 各種障害者スポーツ事業を積極的に開催することで, 障害者スポーツが広く認知され, 施設利用者の増加にも繋がっている。		S
④自主事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> バドミントン大会 救命救急法講習会 		<ul style="list-style-type: none"> バドミントン大会では選手, コーチ, 父兄, ボランティアなど多くの参加があり, バドミントン初心者も交流を楽しむことができた親善大会となりました。 ・救命救急講習会では土曜開催としたことで例年以上に多くの方が参加され, 特に当事者の方は救命救急講習が初めてという方も多く, 熱心に取り組まれました。 	A	毎年, 自主事業の内容や開催方法を工夫することで, 初めて体験する方でも, 触れ合う機会を提供し, 障害者の社会参加に積極的に取り組んでいる。		A
⑤利用者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> 運営協議会の実施・利用調整会議の設置, 利用者からの要望の対応。 ・物品(体育備品)の無料貸し出し ・ノロウイルス・O157の対策としてドアノブ・スイッチ・手すり等の消毒による感染予防 ・毎朝の体育館, トイレ, 更衣室, 機械室の安全確認 		<ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会, 利用調整会議でいただいた意見は所内会議にて職員間で話し合い, 利用者へ反映いたしました。 ・体育館, グラウンドは, 職員が毎朝目視点検してから開館としています。 ・施設の代表メールアドレスを設けました。 	A	個人利用者, 団体利用者の調整を適切に行っているほか, 利用者へ体育備品の無料貸出しを行うなど, 工夫もされており, 利用者サービスの向上に努めている。		A
⑥利用者の苦情, 要望等の把握とその反映	<ul style="list-style-type: none"> 意見箱の設置 ・口頭, 電話等による要望受付 ・苦情受付の窓口設置・運営協議会からの意見聴取 		<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見は苦情・要望に区別して把握し, 迅速な対応・解決改善を心がけ, 小さな意見にも誠実に対応しました。職員間でも意見を共有し関係機関等との連絡を密にしました。 	A	苦情や要望, 意見に対して, 迅速に可能な範囲で対応, 改善, 反映に努めている。		A
⑦安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・AED・熱中症応急キット, 館内へ温・湿度計の設置・薄くなった駐車場の線引きの実施 ・駐車場不足に伴う交通整理, 利用者の誘導 ・点字ブロック上の安全確保(車両移動)を実施 ・消防訓練の実施(2回実施) ・放火対策として, 当日朝のゴミ出しに近隣関係機関にも徹底しました。 		<ul style="list-style-type: none"> ・体育館内に温・湿度計や冷風器を設け緊急用として補給用飲料水を常備して熱中症対策に力を入れました。・利用者が安心して施設利用できるように安全面の確保に努めました。 ・地震火災を仮定した避難訓練では本番同様の体制で実施し, 防災意識を強化できました。 	A	熱中症対策のため, 施設内に温度計, 湿度計を設置するほか, 補給用飲料水の常備など, 施設利用者が安心して安全に利用できるよう配慮されている。また, 年2回の避難訓練も適切に実施されている。		A
⑧県民の平等利用	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用において利用調整会議を行うことで施設利用の平等化を図りました。 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用調整会議では障がい者団体・その他の団体と抽選方式で利用調整会議を開催し, 公正・公平な体育館利用の平等化を図りました。 	A	施設利用にあたっては, 障害者利用と一般利用の抽選方法を明確に定め, 利用者にはご理解いただいた上で, 抽選とし, 公平性を確保している。		A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	・基本協定書の「個人情報取扱特記事項」を遵守し、職員には所内会議の中で取扱いについて確認をいたしました。	・各事業の申込受付では取扱に注意し、保管期間経過後はシュレッダーで破棄しました。利用団体名簿はロッカー内で保管し、必要な場合のみ閲覧しており、適正に管理しています。	S	個人情報の取扱については、執務室内からの持出しを原則禁止とし、執務室内の書棚で適正に管理されている。	A
⑩利用実績	・上記4. 施設利用実績の通り	・体育館の利用では、夜間利用時間が延長になり、夜21時までの利用が多くなりました。予定表では一時間ごとに貸館状況を表示し、空いている時間帯も効率的に貸し出すことができている。また、HPで随時予約状況を公開し、キャンセル後の有効利用を図りました。地域住民の方から施設利用の問い合わせも増えています。	A	体育館の利用時間延長に伴う利用者の増加にも適切に対応し、一時間ごとにホームページで利用状況を公開するなど工夫することで、施設の有効活用に配慮している。	A
⑪収支実績	・上記「5. 管理運営収支実績」の通り	・支出面では業務運営に支障が出ないように注意しながら節約を図りました。 ・館内の事務所・廊下・トイレ・更衣室の照明をLED仕様にして電気代の節約を図りました。	A	節減に努めながら、施設の省エネに配慮するなど工夫されており、収支も良好である。	A
⑫その他の取組	・虐待防止への取り組み ・地域、住民関係機関との連携 ・環境配慮の取り扱い状況	・虐待防止委員会を設置し、啓発や防止に努めました。 ・地域の方々にも施設を貸出してあり、近隣施設に事業等の案内し、障がいのある方への理解・共生を図りました。 ・宮城県「わが社のe行動」宣言に基づき「環境配慮実践事業者」として再登録を完了しました。(H31. 4. 9)	A	地域住民に施設利用を促すことで、施設のPRのほか、指定管理者が主催する事業への参加にも繋がっており、事業参加者には、障害に対する理解も深まってきている。継続して取組んでいきたい。	A
総合評価		・体育館・グラウンドの利用者数は昨年より458名の増加となりました。体育館の夜間利用が延長となり、平日の勤労障がい者の利用が多くなったことが考えられます。平成30年度事業計画に基づき適切な管理運営をおこないました。利用者の障がいの状況やニーズに合わせたスポーツ教室の開催、地域巡回指導の実施をおこないました。 ・施設の管理運営に支障が出ないよう調整を図りながら、県内各地の施設へ赴き障がい者スポーツやパラスポーツPRや普及に努めました。	A	来年度に開催される東京2020パラリンピックの影響により、県内の障害者スポーツへの関心が高まっており、施設利用者数も増加する中、積極的に事業を展開するほか、適切に施設の管理、運営がされている。今後も利用者の増加と施設に対する意見や要望が考えられるため、これまでと同様に、適切な管理運営を継続していただきたい。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	・年間を通して利用団体からの土日の大会・講習会の依頼が多く、利用団体の練習日確保が難しくなっています。体育館の複数団体利用等を考えていかなければなりません。また、体育館・グラウンドの老朽化と併せて機械設備等の劣化が激しく、故障・破損・不良状態等の発生頻度が上がることが考えられます。緊急時の修理・修繕の対応について整備していきたいと思えます。	課題とされているとおり、施設の老朽化が懸念されており、指定管理者とともに施設の修繕箇所を再確認し、必要に応じて大規模修繕も視野に、長寿命化を念頭として計画を策定し、安全を確保した上で適正に管理運営していく。